

令和2年度

関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会

(8月期臨時開催)

次 第

1. 開催形式

資料送付による書面開催とし、各委員より国有林材供給調整の必要性等について意見聴取する。

2. 各委員からの意見聴取事項

(1) 木材の需給動向と今後の見通しについて

(2) 国有林材の供給調整の必要性について

令和2年度 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会(8月期臨時開催) 出席者名簿

(五十音順・敬称略)

所 属 ・ 役 職 名	氏 名
株式会社フジイチ 代表取締役社長	石野 秀一
福島県森林組合連合会 常務理事	遠藤 誠寿
栃木県林業木材産業課 木材産業担当 課長補佐	川上 晴代
協和木材株式会社 代表取締役社長	佐川 廣興
東京合板工業組合 業務統括室長	佐々木 祐子
茨城県森林組合連合会 代表理事専務	佐藤 信聡
群馬県森林組合連合会 木材部長	鈴木 克志
有限会社平子商店 専務	平子 美穂子
栃木県森林組合連合会 木材流通課 課長	田中 幸夫
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 研究コーディネーター(地域イノベーション推進担当)	堀 靖人

関東森林管理局

官 職	氏 名
森林整備部長	山口 輝文
資源活用課長	古澤 茂昌
企画官(木材需給対策)	渋谷 英夫

令和2年度 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会（8月期臨時開催） 議事概要

1 開催日時・場所

令和2年8月18日（火）書面開催

2 検討結果

管内の需給動向や各委員からの状況報告等を総合的に勘案した結果、現在取り組んでいる国有林材の供給調整の取組を継続するとともに、更なる取組として、「供給過剰を緩和するための供給調整」と、「雇用確保の観点からの原木生産を伴わない森林整備への振り替え」等について、各地域の需要動向等を注視しつつ、各地域の実情に即して柔軟に取り組む必要がある。

また、引き続き木材需給動向を注視し、今後においても各地域の関係者からの意見等を把握しながら、必要に応じて委員会の臨時開催も視野に入れることとする。

3 概要（状況報告等）

(1) 木材の需給動向と今後の見通しについて

- 川上においては、原木価格の低下から素材生産量の調整、皆伐を搬出間伐へ切り替えて実施している。
- 7月の長雨の影響や連日の猛暑の影響もあり、出材が減少し、50%～70%の減産となった。
- 川中においては、原木価格の低下により素材生産が控えられたことから、一部の製材工場では材の不足を懸念している。
- 新型コロナウイルスの影響により先行き不透明であり、製材工場は入荷を最小限に絞り込んだ。そのため、原木は市場において安売りされ、立方単価10千円を割り込む水準まで下落した。7月の長雨の影響もあり、8月には一変して原木の不足が表面化したことにより立方単価12千円まで回復した。
- 大手工場の荷動きは悪くない印象だが、地場工務店等が苦戦しており、二極化している。工場の減産により、今後製品の在庫は減少する見込み。非住宅用の製品も動き出している。
- 製材品の出荷は関東地方を中心に悪くなっている。

(2) 国有林材の供給調整の必要性について

- 立木販売の搬出期間の無償延長、地域の需要と供給のバランスを考えた生産、請負事業者の事業量、地域の雇用形態に合った事業の見直しなど、現在の状況に合った対応が行われており、継続した対応をお願いしたい。
- 供給調整対策の実施に当たっては、地域の林業の実情を十分に勘案し適切に行われることを要望する。特に国有林材については地域の製材業、素材生産業に与える影響が大きいことから、慎重に対応されたい。

- 市場においては原木入荷が少ない状況にあり、在庫についても不足している。国有林材の供給調整については、需要動向を注視しつつ、柔軟な対応をお願いしたい。
- 現段階で原木不足が叫ばれている地域が多々あり、値段も上昇している。ただし長い目で見れば住宅着工数が減少する予想などがあり、民間の生産が活発になる時期を考えれば、供給調整の動きを止めるべきではないと考える。
- 外材についても需要減少の中で価格を下げて需要の維持を図っており、過度な生産調整は国産材の競争力を低下させかねない。